

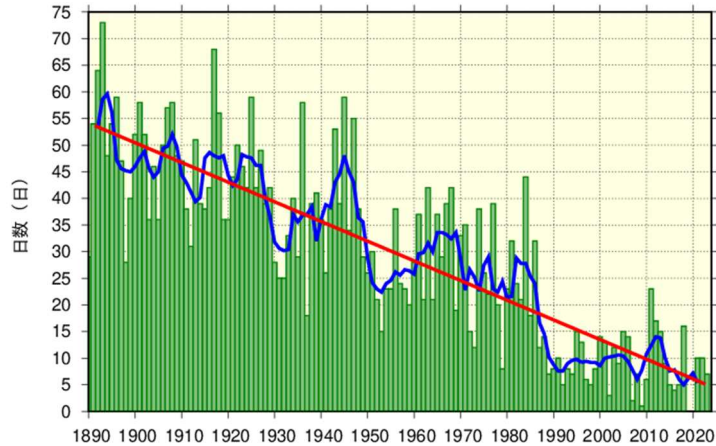
【1 月の気象】

1 月の季語は、「新年」「元旦」など年の初めを表す言葉も多いですが、「雪」「氷」「冬日」など、寒さを表す言葉も多くあります。月平均気温の平年値で見ると 1 月は最も寒くなる月です。テレビで「冬型の気圧配置となり、寒い 1 日となりました」等、聞かれることが多くなります。

季語にある冬日は、最低気温が氷点下となる日を言います。松山の冬日日数は昔に比べ大きく減っています。1950 年ごろまでは年間に 50 日を超える冬日日数がある年も珍しくありませんでしたが、減少傾向で 10 年で約 4 日の割合で減少しています。近年は冬日日数が 0 日となる年もあります。

ちなみに、真冬日（最高気温が氷点下）は過去に 5 日あり、最後の真冬日は 1984 年 2 月 7 日（最高気温 -0.1℃）です。

地球温暖化の影響で冬季の気温も上昇傾向で、冬日日数も減る傾向ですが、強い寒気が入れば大雪や寒い日もあります。体調管理や農作物の管理など注意が必要です。



第 1 図 松山の年間冬日日数の経年変化(1890 年～2023 年)

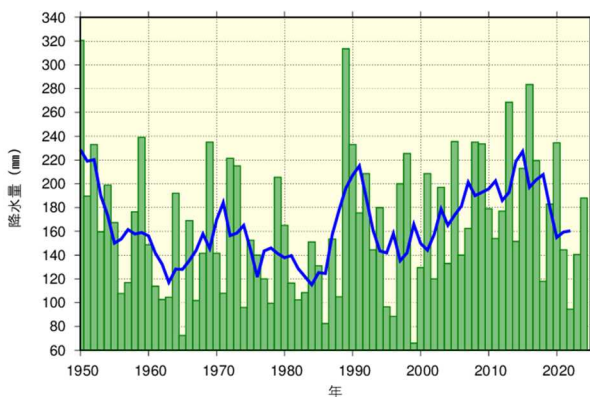
【気象用語】「松山の降雪量」について

雪の観測は、降雪量と積雪量があります。降雪量は、雪が降った量で、積雪量は降った雪が地上に積もった量を測っています。例えば、1 日で 20cm の降雪量があっても、降った雪が溶けたり、圧縮されたりして積雪量は 20cm より少なくなるということもあります。

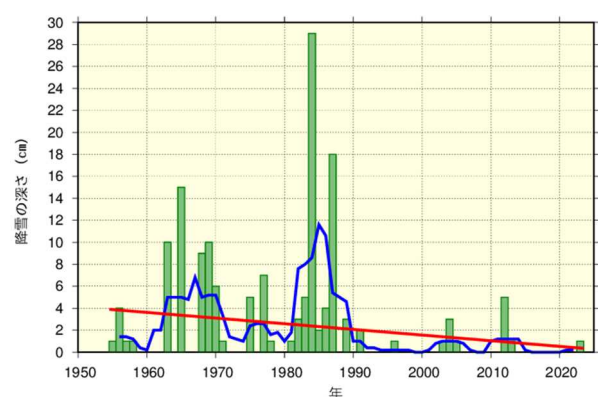
松山の冬の降水量は年々の変動は大きいですが、増加・減少の変化傾向はありません(第 2 図)。しかし、寒候年*の積算降雪量は、年々少なくなっており、100 年で 5cm 減っています(第 3 図)。地球温暖化の影響で冬期の気温が高くなることで、雪で降るところが、みぞれや雨で降っていることが考えられます。2000 年代は、降雪量が 1 cm にも満たない年が多くなっています。

一方、2022 年 12 月に、強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まり、中予や南予の山地を中心に大雪となりました。特に久万高原町は積雪が 76cm となり、大きな被害が発生しました。地球温暖化の影響で、松山の積雪量は減る傾向ですが、ひとたび、強い寒気が入ると大雪になることがあります。気象台の発表する雪に関する情報には、注意してください。

*寒候年：その年の前年の 8 月 1 日～当年の 7 月 31 日までを言います。これは、降雪の深さなど、主に冬季に観測する要素は、年をまたいで統計を行う必要があるからです。したがって、2024 寒候年は 2023 年 8 月 1 日～2024 年 7 月 31 日となります。



第 2 図 松山の冬の降水量(1950 年～2024 年)



第 3 図 松山の積算降雪量(寒候年:1953 年～2024 年)